

Y12b 小学校から高等学校までを通した天文教育スタンダードの作成

有本淳一(京都市立塔南高校)、縣 秀彦(国立天文台)、北畠悦子(京都市青少年科学センター)、五島正光(巢鴨中学高校)、成田 直(豊能町立東能勢小)、松村雅文(香川大)、水野孝雄(東京学芸大)、渡辺洋一(大阪市立港南中)

我々は昨年の秋季年会において、小学校から高等学校までを見通した天文分野のカリキュラム案を作成し、提案した(有本他、2004年秋季年会 Y05b)。これは次期学習指導要領改訂を視野に入れたもので、いろいろな立場で考えられたものを複数提示するものであった。しかし、本来のカリキュラムとは目先の指導要領の改訂などには関係なく、本質的に子ども達がどのように宇宙観という概念を形成していくのかということ、あるいはどのように教授していくと現代の天文学が描く宇宙観を獲得できるかという視点で構成されなくてはならない。そこで、我々は秋季年会において提案したカリキュラムをさらに検討し、すべての子どもたちが学ぶべき天文学的内容と、その指導法・指導順を示すユニバーサルなカリキュラム案を作成した。これは今後の天文カリキュラムの議論の中で基本的な考え方を示すものとなることを目指した。

また、カリキュラムとは教材・教具、あるいは具体的な指導案と一体となっはじめて現場で使われるものである。よって、そのような付随するものをあわせた全体を、全米科学教育スタンダードにならい、"天文教育スタンダード"と呼び、これを提案するものである。

講演では基礎的資料として作成中である教材や教具のデータベースについても紹介するものである。